

# 芦安ファンクラブ通信

## 第11回全国ボランティアフェス

「ティバルやまなし」によせて

芦安村長 清水 哲夫

朝晩、秋を感じる季節となり一年を通じて一番過ごしやす季節となりました。

県内各市町村を会場地として、全国各地より大勢の関係者が参加して「第11回全国ボランティアフェスティバル やまなし」が開催され、本村に於いても「小さな村の大きな挑戦」をメインテーマに行われる事に対し、全村あげて参加される皆様に歓迎申し上げます。どうかこの素晴らしい大自然を大いに満喫していただきたいと思います。

南アルプスは本村にとりまして全国に誇れる自然の宝庫であります。そのために、地元として関係者各位の協力を得る中で村花でもある「北岳草」をはじめとする高山植物の保護・山岳トイレの改善・登山教室の開催・開山祭の開催などあらゆる施策を展開して参りました。さらに今年度は仮称「山岳文化館」を建設中です。この施設を今後軸として更に其の活動を展開して地域の活性化につなげて行きたいと考えております。

今年「国際山岳年」でもあります。そのことを受けて地球規模の山岳環境の保全活動始まり国内においても大岳・学会・山岳関係者などが行動を開始し、人間は「山の恩恵に浴し

## 第11回全国ボランティアフェスティバル やまなし・芦安部会開催 9月21,22日南アルプスの大自然の中で実施

ている「ゆう意識改革に取り組み始めました。本県においても百名山を選定し、山の日を制定し、山岳トイレ整備事業をすすめる、文化財については自然文化を積極的に取り入れております。そんなことを思うときに「南アルプス」を地元という立場で預かる我々の果たす役割は重大であります。今後共不断の努力により後世に引き継ぐことが責務と考えます。

結びになりましたが、開催するに当たり社会福祉協議会を中心として諸準備を進めてまいりましたがご多忙の中、基調講演のため来村下さいました白旗先生、多方面よりご指導並びにご助言を頂きました芦安ファンクラブ、老人クラブ、婦人ボランティア、調理師会、観光協会の皆様に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。



特集号  
第10号

発行者：  
芦安ファンクラブ  
山梨県中巨摩郡  
芦安村芦倉  
1589-8  
事務局情報係  
(大滝)  
055-288-  
2531



白根三山を一望できる夜叉神峠



手作りの樹木名版

9月22日(日) AM5:30~9:30

夜叉神峠までの木々に樹木名が一目で解かる手作りの名板を50枚設置します。貴重な植物を知る事によって大切に残していこうという発想です。

樹木の調査には山梨県県有林課の専門家にご協力していただきました。名板は出来るだけ自然にやさしく作りました。参加者の皆さんの熱いボランティアの心を込めて取り付けていただきたいと思います。



夜叉神峠登山口

9月21日(土)

PM 1:00~5:00 芦安ファンクラブによる  
第7回南アルプス芦安登山教室研修会開催

PM 6:00~8:30

(ふれあい館) 全国ボランティアフェスティバル交流会  
全国から訪れた方々と地元の参加者との交流会  
地元の味にこだわった調理師会の自慢の料理や地域の特産ワインを囲んでの交流会はきっと満足していただけると思います。



芦安小学校

9月22日(日)

AM 9:30~12:00 (ふれあい館)

- \* 基調講演「すばらしきかな南アルプス」白旗史朗氏
- \* パネルディスカッション  
—小さな村の大きな挑戦— 仲田公彦氏、白旗史朗氏、花岡利幸氏、長谷部裕子氏
- \* 環境宣言—芦安中学校生徒

PM 12:00~14:00 (芦安小学校校庭)

- 交流広場 \* ふるさとの食コーナー きびご飯、手打ちそば販売
- \* 特産品販売コーナー わらざるの実演販売
- \* 飲み物たこ焼きコーナー
- \* 生活・環境・歴史写真展示 \* 白旗史朗氏サイン会



交流センター「ふれあい館」

# 第十一回全国ボランティアフェスティバル

## ようこそ芦安へ！

NPO 芦安ファンクラブ会長

花岡利幸

毎年「全国ボランティアフェスティバル」が全国社会福祉協議会の主催で持ち回りで開催されています。第十一回フェスティバルが山梨県で二〇〇二年九月二十一日・二十二日の二日間行われます。その主催は山梨県社会福祉協議会であり、その下に実行委員会が構成され、県下に参加部会を構成します。参加部会の所属市町村の社会教育課が窓口になってこれに当たります。フェスティバルの目的はそこで行われているボランティア活動を披露することによって、そこに参加する地域の住民及び地域外からの参加者が日頃のボランティア活動を改めて確認し、その重要性を各自の意識の中に強く呼び起こし、人々の社会参加を通じて地域の発展に寄与するものだと思います。芦安村は実行委員会に名乗りを上げてこのフェスティバルに県下四十八部会の一つとして参加することを決めました。「全国ボランティアフェスティバル 芦安部会」のテーマは「南アルプスの大自然で村おこし 小さな村の大きな挑戦」です。その開催は行政である芦安村とNPO 芦安ファンクラブが協働して当たります。

地域にボランティア活動の必要なことは昔から分かっています。地域社会は各戸（民間）とその行政（公共）

が両者の立場で、与えられた、またはやるべき仕事を果たすことによって地域を盛り立て、地域が安全で幸せの生活の場が成立すると考えられます。ところがこれだけでは地域は上手くいかず、民間と公共の間にも一つ一つの中間組織があって始めて上手く機能する仕掛けになっていきます。昔の地域社会では、隣り近所の地縁関係を基礎にした隣組、自治会というものがその役を担っていました。その中には奉仕活動、ボランティア活動が含まれます。そして、これが今も大切な組織であることに変わりはありません。

地域社会の重要性は昔も今も変わりませんが、地域社会の内容の変化により、この地縁関係を基礎にする中間組織だけでは足りないものがいっぱい出てきました。また人口が少なくなつた地域では旧来の組織が成立しなくなつたり、地域のしきたりに縛られる傾向を持つこの組織が核家族には馴染まなくなつたこともあって、現代に合った、その他の組織がいろいろと地域に出現しています。その一つとして地域にこだわらないボランティア活動（以後単にボランティア活動と言ふ）とNPO（非営利法人組織）が地域社会（コミュニティ）を支えるものと注目されるようになってきています。

このボランティア活動の重要性を私たちの脳裏にまざまざと焼き付けたのは、あの一九九五年の阪神淡路大震災復興の時、全国から集まつたボランティア活動のすごい威力でした。そしてナホト力船籍の石油原油輸送難波船からの原油流出による日本海沿

岸の環境汚染に対する全国からのボランティア活動の成果でした。これら出来事を契機に、あるコトに関するボランティア活動という形の中間組織がコミュニティ形成の組織として重要であることが分かってきました。この活動はコトにこだわり、地域にあまりとらわれないことを特徴としています。NPOの組織化が法律で認められたのが一九九八年のNPO法です。この数年の間にわが国にいろいろな形のボランティア活動団体が雨後の筍のように目を出しています。

私どもの「芦安ファンクラブ」は五年前、一九九七年に芦安村にとらわれない広く一般に南アルプスの好きな人たちが集まつて、その拠点である麓の人口五百六十人の芦安村を盛り立てようとして出来たボランティア活動団体です。その活動の展開課程と将来展望を示すと、およそ以下のようになります。南アルプスが好き 登山（コト） 登山教室の開催（コトを通じた村との協働） 蕎麦づくり、開山祭など（他のコトへの波及、村との協働） 山岳文化館（仮称）の建設（コトの拠点施設の建設、村との協働） 山岳都市を目指した南アルプスの麓のまちづくりへ（コトをいっぱい詰め込んだまちづくり、村との協働）。これが小さな村の大きな挑戦の内容です。

いわば南アルプスを相手にした贅沢な遊びである「自分たちの好きなコトをやる活動団体」として出発した芦安ファンクラブは初期の段階に村の行政にスムーズに受け入れていただき

望む北岳から方面岳の間

村との協働で芦安村を盛り立てる結果になりました。これは本当にありがたいことでした。村長の清水哲夫氏並びに村行政の皆さん、村民の皆さんに心から感謝いたします。そして、遊びで出発したファンクラブが村民に認められて、村民を巻き込み、結果として行政と対等な立場で芦安の地域を盛り立てていくことになれば大変うれしいと思います。地域の生活の目的は幸せ：そこに生活することが楽しいものでなければなりません。今年、二〇〇二年五月芦安ファンクラブはNPOになりました。

芦安ファンクラブでは第十一回全国ボランティアフェスティバル・イン山梨・芦安部会と第七回南アルプス芦安登山教室を合同開催するという形でファンクラブの目的を果たそうと企画しました。フェスティバル参加の皆さんも、登山教室参加の皆さんも二倍の楽しみと学習の機会にしてくださいと思います。



## 二〇〇二南アルプス開山祭

新緑の広河原に先人の偉業への

感謝と安全登山を誓う

清水哲夫 芦安村長

多くの村関係者や一般参加者が集い盛大に開催された開山祭の中で、清水哲夫 芦安村長の歓迎の挨拶や多くの来賓の皆様からこの地域に掛ける熱い想いが語られました。

本日の開山祭にご多忙のところ山梨県富田出納長をはじめ、来年4月に市制に移行する峡西五町村の関係者の皆さん、隣接の早川町長にもご出席いただきました。

野呂川林道が開通して早くも四十年の歳月が経過した。またウエストンが北岳に初登頂して一〇〇年となったという、大きな節目の年を迎えた。このように盛大な開山祭が出来たことに心から敬意と御礼を申し上げます。

野呂川林道も昭和二十七年七月五日に着工し、一〇年余の歳月を要しここまで開通したが、十二名の尊い犠牲者も出した。しかし芦安村はそれに先立つ、昭和二五年から六年にかけて集団で移住をした経緯がある。それは山の経営が非常に厳しくなっており、行き詰まり状態になったからである。



「つる払い」後、百年前の案内人に連れられキタダケソウ観察会に向かう登山者

遠くは山口県、近くは白根町、八田村、櫛形町、明野村方面に移住をした。この林道が着工をし一気に入気づいたのも事実であります。

本日は皆さんを歓迎するかのようには好天で、素晴らしい景観を見ていただきたい。特に新市構成の皆さんには実感をしていただきたい

来年は新市の開山祭としてより立派になることを期待しております。

芦安村はこの南アルプスを持っているがまず願うのは登山者の安全であります、是非素晴らしい景観を味わって我が家に無事帰っていただきたい。